

第30回建設業経理事務士検定試験

3級試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
一	千	百	十	一	千	百	十	一
億	万	万	万	万	の	の	の	の
の	の	の	の	の	位	位	位	位
位	位	位	位	位				

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 群馬工務店の次の各取引について、仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。

（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- （1） 福井商事株式会社から株式配当金領収証¥5,000を受け取った。
- （2） 有価証券（帳簿価格¥780,000）を売却し、その代金¥624,000を小切手で受け取った。
- （3） 石川商店から建材¥250,000を購入し、本社倉庫に搬入した。その代金のうち¥50,000は現金で支払い、残額は翌月末日に支払う約束である。
- （4） 前期に計上した秋田商店株式会社に対する完成工事代金の未収分¥543,000が、同社倒産のため回収不能となった。なお、貸倒引当金の残高が¥300,000ある。
- （5） 南北銀行において約束手形¥360,000を割引き、¥4,800を差し引かれた手取額を当座預金に預け入れた。

〈勘定科目群〉

A 現金	B 当座預金	C 受取手形	D 支払手形	E 有価証券
F 有価証券売却益	G 有価証券売却損	H 工事未払金	J 未払金	K 完成工事未収入金
L 支払利息	M 材料費	N 受取配当金	P 受取利息	Q 手形売却損
R 貸倒引当金	S 材料	T 貸倒損失	U 完成工事高	

〔第2問〕 次の工事原価計算表、未成工事支出金勘定に基づき、解答用紙の完成工事原価報告書を完成しなさい。なお、当期中に301号工事と302号工事は完成し、303号工事は期末現在未完成である。

（12点）

工事原価計算表

（単位：円）

摘要	301号工事		302号工事		303号工事	合計
	前期繰越	当期発生	前期繰越	当期発生	当期発生	
材料費	465,000	×××	53,000	238,000	78,000	×××
労務費	×××	86,000	×××	195,000	65,000	746,000
外注費	230,000	79,000	×××	124,000	×××	551,000
経費	109,000	×××	38,000	×××	42,000	305,000
合計	×××	286,000	199,000	×××	241,000	×××

未成工事支出金

（単位：円）

前期繰越	×××	完成工事原価	×××
材料費	410,000	次期繰越	×××
労務費	×××		
外注費	×××		
経費	158,000		

〔第3問〕 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表（平成×年9月30日現在）を完成しなさい。

(30点)

<資料1>

合計試算表
(平成×年9月20日)

(単位：円)

借方	勘定科目	貸方
876,000	現金	625,000
3,250,000	当座預金	1,980,000
1,684,000	受取手形	960,000
4,570,000	完成工事未収入金	3,840,000
689,000	材料	518,000
1,800,000	機械装置	
800,000	備品	
780,000	支払手形	1,640,000
1,460,000	工事未払金	2,680,000
360,000	借入金	1,800,000
1,260,000	未成工事受入金	2,350,000
	資本金	500,000
	完成工事高	5,672,000
1,860,000	材料費	
1,210,000	労務費	
698,000	外注費	
562,000	経費	
726,000	販売費及び一般管理費	
	雑収入	36,000
16,000	支払利息	
22,601,000		22,601,000

<資料2> 平成×年9月21日から9月30日までの取引

- 21日 工事契約が成立し、前受金¥300,000を現金で受け取った。
- 22日 材料¥240,000を掛けで購入し、本社倉庫に搬入した。
(下記注参照)
- 23日 工事の未収代金¥196,000を小切手で受け取った。
- 24日 本社の事務用品代¥26,000を現金で支払った。
〃 材料¥98,000を本社倉庫より現場に送った。
- 25日 現場作業員の賃金¥150,000を現金で支払った。
〃 本社事務員の給料¥120,000を現金で支払った。
- 26日 外注業者から作業完了の報告があり、外注代金¥283,000の請求を受けた。
- 27日 当社振出しの約束手形¥320,000の期日が到来し、当座預金から引き落とされた。
- 28日 材料の掛買代金支払のため約束手形¥210,000を振り出した。
- 29日 借入金¥400,000とその利息¥13,000を支払うため小切手を振り出した。
- 30日 工事が完成し、引き渡した。工事代金¥800,000のうち前受金¥200,000を差し引いた残額を約束手形で受け取った。

(注) 材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替える。

〔第4問〕 次の文の の中に入る適当な用語を下記の<用語群>の中から選び、その記号（ア～ス）を記入しなさい。

(10点)

- (1) 工事台帳は、特定の工事ごとに個々の取引を集計できるように工夫された帳簿であり、 a の補助元帳としての機能を果たしている。
- (2) 受取利息は b の勘定に属し、前受利息は c の勘定に属する勘定科目である。
- (3) 材料の d を把握する方法として、 e と棚卸計算法がある。

<用語群>

- | | | | | |
|------------|-----------|------|---------|--------|
| ア 完成工事未収入金 | イ 損益 | ウ 負債 | エ 継続記録法 | オ 収益 |
| カ 費用 | キ 未成工事支出金 | ク 資産 | コ 先入先出法 | サ 消費単価 |
| シ 購入原価 | ス 消費数量 | | | |

【第5問】 次の<決算整理事項等>に基づき、解答用紙に示されている竹沢工務店の当会計年度（平成×2年1月1日～平成×2年12月31日）に係る精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。 (28点)

<決算整理事項等>

- (1) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する。（差額補充法）
- (2) 有価証券の時価は¥237,000である。評価損を計上する。
- (3) 機械装置（工事用）について¥42,000、備品（一般管理用）について¥28,000 の減価償却費を計上する。
- (4) 支払家賃は、3月1日に1年分（月額¥1,600）を契約に基づき前払いしたものである。次期に対応する金額を繰り延べる。
- (5) 当期に完成した工事に係る原価は¥1,477,000である。